

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成22年11月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成22年10月分(平成22年10月4日～10月31日:4週間分)

| No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 | No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 |
|----|---------------|-------|------|--------|------|----|-----------|-------|------|--------|------|
| 1 | インフルエンザ | 27 | 0.06 | 2.25 | ↑ | 10 | 百日咳 | 36 | 0.13 | 0.04 | ↗ |
| 2 | RSウイルス感染症 | 150 | 0.52 | 0.23 | ↗ | 11 | ヘルパンギーナ | 18 | 0.06 | 0.16 | ↓ |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 176 | 0.61 | 0.27 | ↓ | 12 | 流行性耳下腺炎 | 445 | 1.55 | 0.71 | ↘ |
| 4 | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 155 | 0.54 | 0.73 | → | 13 | 急性出血性結膜炎 | 0 | 0.00 | 0.00 | |
| 5 | 感染性胃腸炎 | 1,218 | 4.23 | 4.16 | → | 14 | 流行性角結膜炎 | 68 | 0.89 | 1.00 | ↘ |
| 6 | 水痘 | 225 | 0.78 | 0.60 | ↘ | 15 | 細菌性髄膜炎 | 2 | 0.02 | 0.01 | |
| 7 | 手足口病 | 30 | 0.10 | 0.21 | ↓ | 16 | 無菌性髄膜炎 | 3 | 0.04 | 0.07 | |
| 8 | 伝染性紅斑 | 9 | 0.03 | 0.11 | | 17 | マイコプラズマ肺炎 | 17 | 0.20 | 0.26 | ↗ |
| 9 | 突発性発しん | 153 | 0.53 | 0.57 | ↘ | 18 | クラミジア肺炎 | 0 | 0.00 | 0.00 | |

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成22年10月分(10月1日～10月31日)

| No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 | No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 |
|----|---------------|-------|------|--------|------|----|-------------------|-------|------|--------|------|
| 19 | 性器クラミジア感染症 | 56 | 2.55 | 2.42 | → | 23 | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 122 | 5.81 | 5.64 | ↘ |
| 20 | 性器ヘルペスウイルス感染症 | 17 | 0.77 | 0.88 | ↗ | 24 | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 34 | 1.62 | 1.43 | → |
| 21 | 尖圭コンジローマ | 16 | 0.73 | 0.54 | ↘ | 25 | 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 4 | 0.19 | 0.26 | |
| 22 | 淋菌感染症 | 33 | 1.50 | 1.17 | ↗ | | | | | | |

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 インフルエンザ (6件 27件)
急減疾患 咽頭結膜熱 (441件 176件)
手足口病 (63件 30件)
ヘルパンギーナ (82件 18件)

発生記号(前月と比較)

| | | | |
|-----|---|---|--------------|
| 急増減 | ↑ | ↓ | 1:2以上の増減 |
| 増減 | ↗ | ↘ | 1:1.5～2の増減 |
| 微増減 | ↗ | ↘ | 1:1.1～1.5の増減 |
| 横ばい | → | | ほとんど増減なし |

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178(今回は177)の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

| | 内科定点 | 小児科定点 | 眼科定点 | STD定点 | 基幹定点 | 合計 |
|---------|------|-------|-------|-------|-------------|-----|
| 対象疾病No. | 1 | 1～12 | 13,14 | 19～22 | 15～18,23～25 | |
| 定点数 | 43 | 72 | 19 | 22 | 21 | 177 |

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

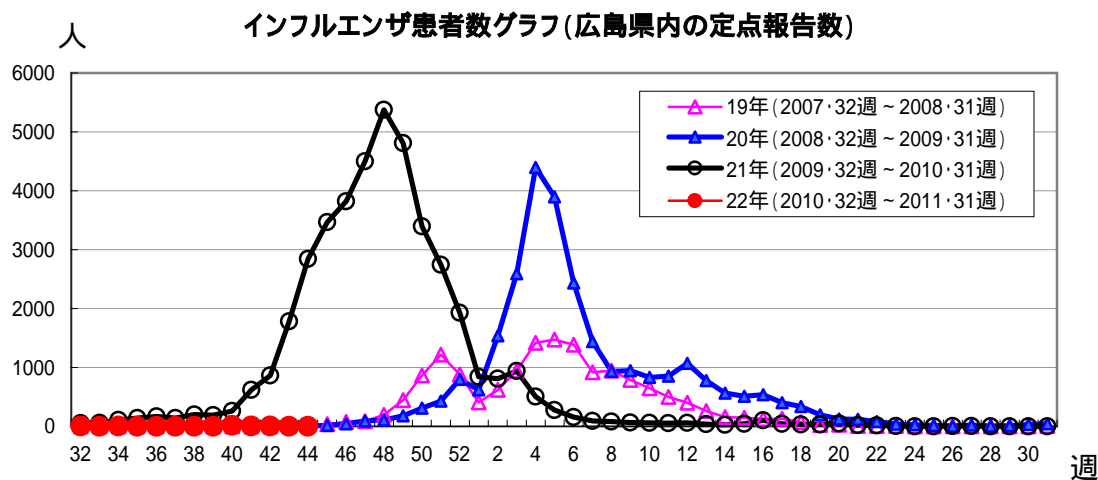
| 類別 | 報告数 | 疾患名(管轄保健所) |
|------|-----|---|
| 一類 | 0 | 発生なし |
| 二類 | 49 | 結核(49)〔西部保健所(7),西部東保健所(4),東部保健所(6),北部保健所(3),広島市保健所(14),呉市保健所(10),福山市保健所(5)〕 |
| 三類 | 9 | 腸管出血性大腸菌感染症(9) O157(6)〔西部東保健所(1),東部保健所(1),北部保健所(2),福山市保健所(2)〕,O26(1)〔広島市保健所〕,O121(2)〔北部保健所〕 |
| 四類 | 7 | デング熱(1)〔広島市保健所〕,日本紅斑熱(1)〔東部保健所〕,レジオネラ症(5)〔広島市保健所(3),福山市保健所(2)〕 |
| 五類全数 | 6 | アメーバ赤痢(1)〔広島市保健所〕,急性脳炎(1)〔東部保健所〕,クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔広島市保健所〕,後天性免疫不全症候群(3)〔東部保健所(1),広島市保健所(1),福山市保健所(1)〕 |

3 一般情報

(1) インフルエンザの流行状況について

本県では、現在のところ流行の目安とされている定点当たり(1週間で1医療機関当たり)の患者数1人を超えていませんが、例年11月下旬から12月上旬頃に流行が始まり、1月から3月にかけてピークを迎えます。

全国のインフルエンザウイルスの分離・検出状況では、季節性のA香港型(A/H3)が新型(A/H1N1)を上回っている状況ですが、これから流行シーズンに向け、情報に注意していただき、感染予防への取り組みをお願いします。



インフルエンザを予防するための注意点

- ・ 外出から帰った時などは、すぐに流水と石鹸で手を洗い、「うがい」をしましょう。
- ・ 睡眠をしっかりと、偏食せずバランスの取れた食事をして、インフルエンザに負けない体力をつけましょう。
- ・ 咳エチケット【咳やくしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りの人から顔をそむけ、使用後のティッシュは、すぐにふた付きのゴミ箱に捨てる。また、症状のある人は、マスクを正しく着用し、感染防止に努める。】を守りましょう。
- ・ なるべく人が集まる場所への外出は避けましょう。
- ・ 症状などからインフルエンザが疑われる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。特に基礎疾患(腎臓疾患, 心臓疾患, 呼吸器疾患等)を有する人や、妊婦, 高齢者, 乳幼児は合併症を起こしたり, 重症化する恐れがありますので, 注意しましょう。

(2) 感染性胃腸炎について

感染性胃腸炎は、冬季に流行のピークがみられる感染症です。感染性胃腸炎を引き起こす病原体は、細菌, ウイルス等たくさんの種類がありますが、冬季に流行する病原体は、ノロウイルスやロタウイルスなどウイルス性のものが多くみられます。ノロウイルスは、非常に感染力が強く、施設内等では感染が拡大し、多くの方が罹患する傾向があり、これからの季節、注意が必要です。

| | |
|------|---|
| 症 状 | 発熱, 下痢(水様便, 血便), 腹痛, 悪心, 嘔吐などの症状が出ますが、病原体によって異なります。下痢症状が遅れてでる場合や発熱を伴わない場合もあります。 |
| 予防対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗い, うがいを励行するとともに, 食品は十分に加熱調理しましょう。 ・ 患者の便や吐物には多量のウイルスが含まれています。これらのものを処理する場合は, 直接素手では触れず, 手袋を使って処理し, 汚染箇所は次亜塩素酸ナトリウムで消毒してください。 ・ 嘔吐したり, 下痢症状がある時は, タオルの共用は控えましょう。 |

12月1日は世界エイズデーです。 続けよう ~ Keep the promise, Keep your life ~